



第103回

私のスケッチブック

「セーヌ川を挟んだ芸術と学術の架け橋・ポンデザール」

ポンテザールとフランス学士院／パリ（フランス）



まずは、この風景を描いた場所です。この構図は、パリ・セーヌ川を挟んでルーブル美術館からポンデザール（芸術橋）を渡りながら、セーヌ川左岸に建つフランス学士院を描いています。フランス美術と学術の最高峰がこの歩道橋によって結ばれているのですから、正に文化の象徴的な場所と申せます。

フランス学士院って何をする場所？ 1635年フランス・ブルボン王朝時代ルイ13世の宰相だったリシュリューによって設立されます。当時はフランス語の純化を目的とされたと言われますが、恐らく言語的に複雑なフランス語を統一する為にフランス語辞書の編さんをしたのでしょう。

このアカデミーは、①辞書の編さんと発刊を行うアカデミー・フランセーズ②碑文・文芸アカデミー③科学アカデミー④芸術アカデミー⑤倫理・政治アカデミーの5分野で構成されています。要するに国立学芸団体

の入っているシンメトリックな美しい建築物なのです。

さて、この作品の手前に描いているのが、ポンデザールです。橋の両脇に鉄のフェンスが設けられていますが、実はこのフェンスが曲者なのです。今世紀に入ってからこのフェンスが賑やかになります…「愛の南京錠」のお話。

若い男女が愛を成就する為に、今では古臭くなった形の鍵に名前を書いてフェンスに旋錠したのが始まり！この橋を訪れる男女が次から次へと新しい南京錠をぶら下げるものですから、市当局も大騒ぎ。通達が出るやら取り締まるやら撤去するやら…、最近は少なくなった様子？一時は、子供目線では景色が観えないのではと心配するような勢いでした。

何処の国でも流行は恐ろしいです。はしかの如く一気に蔓延しますから、パリで一番美しい景色が「南京錠名所」に変貌していました。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索